

Japanese Society for Day Care Treatment  
日本デイケア学会

NEWS No.23

日本デイケア学会広報委員会  
2011年7月20日発行  
日本デイケア学会事務局  
東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F  
(有) エム・シー・ミュージズ内  
TEL: 03 - 3813 - 6368  
FAX: 03 - 3813 - 6368  
E-mail: info@daycare.gr.jp  
http://www.daycare.gr.jp

「デイケアからの飛躍

それぞれのリカバリーを目指して」

—日本デイケア学会第16回年次大会名古屋大会の開催にあたって—

第16回大会 大会長 福智寿彦

このNews letterでのご挨拶は二度目となります。前回の  
ご挨拶後、今も尚続く東日本大震災が発生しました。この  
未曾有の大震災を受け本大会としましても、いま我々にでき  
ることは何なのかを考える機会を設けることしました。冒頭  
先ず、今回の被災者の皆様の一日も早い復興をお祈りしま  
すとともに、スケジュールの大幅の変更にご理解とご協力いた  
だきました皆様にご場をおかりして感謝申し上げます。

開催日程は当初の予定通り2011年9月22日(木)23日(金)  
24日(土)の三日間開催します。名古屋大会の大会テーマは  
「デイケアからの飛躍—それぞれのリカバリーを目指して—」  
です。我々が目指すべき良いサービスとは何でしょうか。我々  
の役割は、とすると当事者が悩み・考え・成長する機会  
を奪ってしまいかねません。「リカバリー」をするのは我々  
ではありません。当事者が悩み・考え・努力する過程こそ  
がリカバリーなのです。当事者が自分で「自分の人生を自  
分で決めていこう。」と思えるような、リカバリーできるよ  
うな環境作りこそが我々に求められる役割ではないでしょ  
うか。転ばぬ先の杖は、怪我を防げても成長は生みません。  
今回のデイケア学会は、当事者・ご家族そして一般の方の  
参加も広く募っております。精神医療におけるリカバリーと  
は何か皆で考えたいと思います。

学術大会は9月22日(木)・23日(金)の二日間、名古  
屋国際会議場で開催します。初日午前には、原クリニック  
院長 原敬造さん、岩手県立大船渡病院第一精神科長  
道又 利さんにこの度の大震災での貴重な経験をご報告い  
ただけることになりました。ランチョンセミナーでは、「デイ  
ケアからの飛躍」と題し、本大会の主旨を私からお話しさ

せていただきます。午後の特別講演では、ロサンゼルス郡  
精神保健局所長兼 CEO で、ロサンゼルス市のヴィレッジを  
運営されるデーヴィッド・ピロンさんをお招きし、「リカバリ  
ーの実践から日本へ提言できること(仮)」という題でお願い  
しました。また、愛知医科大学精神科学講座教授の兼  
本浩祐さんには「それぞれの現場からみたデイケアの位置  
づけ」をお話いただきます。さらに新たな試みである家族・  
当事者によるシンポジウムに加え、介護老人保健施設「伸  
寿苑」の井上崇さんには「地域暮らしを支える通所サービ  
スの役割」を、医療法人雄仁会メディカルケア虎ノ門院長  
の五十嵐良雄さんには「リワークプログラムのデイケアにお  
ける発展と工夫」との題でシンポジウムをお願いしました。

二日目の午前のシンポジウムでは、東京大学大学院総合文  
化研究科教授の石垣琢磨さんには「認知行動療法の有効  
な実践に向けて」との題で、また日本福祉大学社会福祉  
学部保健福祉学科教授の野中猛さんには「精神障害リハビ  
リテーションとリカバリー」との題でそれぞれお話しいた  
だきます。また、災害についての分科会も新設することとな  
りました。午後からは「日本におけるリカバリーとは?」との  
テーマでシンポジウムを計画しました。厚生労働省 精神障  
害保健課長 福田祐典さんもお参加いただきます。そして、  
最後には一般の方にも参加していただく公開講座として「当  
事者が語るリカバリー」を精神医療サバイバー広田和子さ  
ん、当事者のシンポジストをお招きして開催します。

学術大会終了後の24日(土)には、現地での研修・見学  
会を計画しています。精神病院・診療所でのデイケアの実践、  
うつ病のリワークの実践の4コースで行います。

本大会では、新たなデイケア・デイサービスのあり方を展望  
してみたいと思います。全国から多くの皆様のご参加を心よ  
りお待ちしております。

\*本大会においては、通常「先生」と呼ばれる皆様も「さん」と呼び  
することとさせていただきます。ご了承下さい。

2011年7月 吉日

---

日本デイケア学会 第16回年次大会 シンポジウム(1日目 9月22日 木曜日)

## 「当事者・家族シンポジウム ―当事者・家族の想いに耳を傾けよう―」

当事者・家族が望む支援とは何なのでしょう。医療・福祉スタッフから見ればより良いサービスとは何なのでしょう。本大会のテーマでもある「リカバリー」において最も重要なのは、これまでのような医療・福祉スタッフ主導のサービスではなく、当事者がそして家族が如何にして「自分の(自分たちの)人生を決めていくか」だと考えます。極論ではありますが、我々の支援が必要なくなることが理想であり、可能な限り自分たちの力で実現できるような支援環境が望まれます。本人や家族が積極的にリカバリーに関わらずして、本当の意味でのリカバリーは在り得ないのです。その為には、当事者・家族、そして医療福祉スタッフがそれぞれの立場において新たな方策を検討するべきです。

このシンポジウムでは、当事者や家族にリカバリーのプロセスとしてこれまでの体験の中で感じたことを率直にお話しいただく予定です。ご参加いただく皆さんには、当事者や家族が自分たちの人生の回復に関わっていくことの難しさや大切さを貴重な体験談をもとに考えていただきたいと思えます。また、医療・福祉スタッフにとっては今一度原点に戻り「本当に当事者や家族の為になるより良いサービスとは何か?」を再考していただきたいと思えます。必要でありながら、なかなか出会うことのない機会です。多くの皆さんのご参加を期待しております。

---

日本デイケア学会 第16回年次大会 シンポジウム(2日目 9月23日 金曜日)

## 「日本におけるリカバリーとは?」

近年、我が国でも「リカバリー」という言葉をよく耳にするようになりました。しかし、普及の一方で安易な理解と誤解が危惧されます。留意すべき点として①輸入された概念であること、②方法論ではなく概念であることなどが挙げられます。リカバリーの輸入においては、日米の精神医療の歴史的経過の違いを踏まえておく必要があります。その為、我が国の文化・歴史・制度の中で「いかにリカバリーを実現するか」が今後の課題と言えます。また、「リカバリー」という具体的な支援方法があるわけではなく、あくまで「リカバリー」とは「自分の人生を自分で決めていこう」という概念なのです。無論スタッフが行うことでもありません。当事者一人一人のニーズを考慮すれば当然のことなのかもしれません。つまり、「リカバリー」とは「方法論ではなく概念」であるのです。そして、これこそまさに今日本で必要な概念であります。

本シンポジウムでは①デイケアからの飛躍(社会に出ていくためにはどうしたら良いのか?)、②アウトリーチを主力とした生活臨床(どのようなサポートシステムが必要なのか?)に焦点をあて、当事者が希望を持ち「自分の人生自分で決めていこう」と思えるような支援の在り方を、つまりは「日本におけるリカバリーとは?」をシンポジウムのテーマに掲げました。長期入院中の方、引きこもっている方の社会復帰、また既に社会参加している方の継続支援などデイケアに期待されることについて様々なお立場の方にお集まりいただき考えてみたいと思えます。初日のシンポジウムが当事者・家族の視点からであるのに対し、本シンポジウムは支援提供者側からの視点とも言えます。併せましてのご参加をお待ちしております。

名古屋大会では、全てのプログラムにおいて当事者・家族の皆さんにもご参加いただけます。  
また二日目(23日 金)の市民公開講座には、どなたも自由にご参加いただけます。  
是非、お誘いあわせの上ご来場ください。

# 日本デイケア学会 第16回年次大会名古屋大会のご案内

大会テーマ

「**デイケアからの飛躍** ～それぞれのリカバリーを目指して～」

大会長

**福智 寿彦** (医療法人福智会 すずかけクリニック院長)

大会URL

<http://www.jpdc16.com>

会 期

**平成23年 9月22日(木)～9月24日(土)**

学術大会 9月22日(木) 23日(金) / 見学会・研修会 9月24日(土)

## プログラム

### 学術大会

日 時：平成23年9月22日(木)・23日(金)

会 場：名古屋国際会議場 白鳥ホール  
(名古屋市熱田区熱田西町1-1)

参加費：

会 員	事前登録	7,500円
	当 日	8,500円
一 般	事前登録	8,500円
	当 日	9,500円
当事者・家族・学生	4,000円	

事前参加登録締切：7月31日(日)

(8月1日以降のお申し込み分は当日参加料金となり、FAXのみでお申し込み可能です)

### 1. 震災特別報告

I) 「**東日本大震災 その時われわれは何をしたのか**」

原 敬造 (原クリニック院長)

II) 「**津波の町の精神医療**」

道又 利 (岩手県立大船渡病院 第一精神科長)

### 2. 特別講演

I) 「**リカバリー実践から日本へ提言できること**」(同時通訳)

デービッド・ピロン (ロサンゼルス郡精神保健局 所長兼CEO)

II) 「**精神障害リハビリテーションとリカバリー**」

野中 猛 (日本福祉大学社会福祉学部 保健福祉学科教授)

### 3. 教育講演

I) 「**認知行動療法の有効な実践に向けて**」

石垣 琢磨 (東京大学大学院 総合文化研究科教授)

II) 「**それぞれの現場からみたデイケアの位置づけ**」

兼本 浩祐 (愛知医科大学 精神科学講座教授)

---

## 4. シンポジウム

### I) 「気分障害を対象としたリワークデイケア

～リワークプログラムの実践と効果～

五十嵐 良雄 (医療法人社団雄仁会 メディカルケア虎ノ門院長)  
舟橋 利彦 (ルーセントJ'sクリニック院長/医療法人明心会 仁大病院理事長)  
加藤 和子 (さくら・ら心療内科院長/医療法人生々堂厚生会 森病院副院長)  
大木 洋子 (医療法人社団雄仁会 メディカルケア虎ノ門/  
慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 博士課程)

### II) 【高齢者デイケア】「地域の暮らしを支える通所サービスの役割」

井上 崇 (介護老人保健施設「伸寿苑」施設長代理)  
小山 樹 (株式会社ジェネラス 代表取締役)  
小澤 和枝 (セキスイオアシス株式会社 オアシスセンター 副センター長)  
山下 正倫 (医療法人仁医会 中澤通所リハビリテーションセンター部長)  
中島 智子 (医療法人愛生会 上飯田リハビリテーション病院 看護師)

### III) 当事者シンポジウム「当事者の想いに耳を傾けよう」

### IV) 家族シンポジウム「家族の想いに耳を傾けよう」

### V) 震災シンポジウム「東日本大震災と被災者支援」

浅野 弘毅 (東北福祉大学 せんだんホスピタル院長)  
新階 敏恭 (医療法人くさの実会 光ヶ丘保養園 医師)  
須藤 康宏 (医療法人創究会 小高赤坂病院 総合リハビリテーション部長)  
宮城 秀晃 (宮城クリニック院長)  
林 みづ穂 (仙台市精神保健福祉総合センター所長)  
川副 泰成 (神奈川県立精神医療センター セリがや病院院長)

---

## 5. パネルディスカッション 「日本におけるリカバリーとは」

特別発言 福田 祐典 (厚生労働省 精神障害保健課長)  
パネリスト 浅野 弘毅 (東北福祉大学 せんだんホスピタル院長)  
佐々木裕光 (医療法人恵愛会 福岡病院院長)  
澤 温 (医療法人北斗会理事長)  
司会 福智 寿彦 (医療法人福智会 すずかけクリニック院長)  
窪田 彰 (医療法人草思会 クボタクリニック院長)

---

## 6. 市民公開講座 「当事者が語るリカバリー」

シンポジスト 広田 和子 (精神医療サバイバー) ほか  
司会 永田 仁

---

## 7. 一般演題 18分科会 61演題

- |               |                  |               |
|---------------|------------------|---------------|
| 1) 「プログラム実践①」 | 7) 「個別支援」        | 13) 「高齢者①」    |
| 2) 「プログラム実践②」 | 8) 「デイケアの機能・役割①」 | 14) 「高齢者②」    |
| 3) 「就労①」      | 9) 「デイケアの機能・役割②」 | 15) 「プログラム運営」 |
| 4) 「就労②」      | 10) 「評価・調査①」     | 16) 「生活支援」    |
| 5) 「就労③」      | 11) 「評価・調査②」     | 17) 「事例」      |
| 6) 「発達障害」     | 12) 「リカバリー」      | 18) 「精神療法」    |

8. ランチョンセミナー (協賛) エーザイ株式会社、大塚製薬株式会社、グラクソ・スミスクライン株式会社  
塩野義製薬株式会社、ヤンセンファーマ株式会社

## 9. 企業展示

10. 懇親会  
日 時:平成23年9月22日(木) 18:00～  
会 場:ホテルグランコート名古屋7F ザ・グランコート  
(本会場より車5分、地下鉄+徒歩13分)  
会 費:7,000円(別途、会場移動の際の交通費が必要となります)

< 研 修 会 >  
日 時:平成23年9月24日(土) 9:00～11:45  
会 場:名古屋国際会議場2号館 会議室  
参加費:学会員2,000円 非会員4,000円  
研修会1【高齢者分野】「認知症高齢者の地域生活支援とデイケアの役割」  
岩尾 貢(日本認知症グループホーム協会副代表 / 社会福祉法人鶴寿会 施設長)  
研修会2【精神科分野】「精神科デイケアにおける『主体性』について」  
栗原 毅(世田谷区北沢保健福祉センター デイケアグループワーカー)  
※研修会についての詳細は日本デイケア学会本部にお問い合わせください。

< 施設見学会 >  
日 時:平成23年9月24日(土)  
A・B・Cコース… 9:00～12:00  
Dコース… 13:30～15:00  
会 場:見学会場現地集合  
Aコース:刈谷病院(精神科デイケア)  
Bコース:医療法人福智会(精神科デイケア)  
Cコース:県立城山病院(精神科デイケア)  
Dコース:ルーセントJ'sクリニック  
※事前申し込み定員制(先着順 大会ホームページより申し込み)

## ポイント取得について

※本大会および研修会は、日本精神神経学会精神科専門医認定制度および  
日本作業療法士協会生涯教育制度の研修ポイント取得対象となります。

### 【日本精神神経学会専門医認定制度(C群取得単位)】

2時間以下:10点 2時間以上～4時間未満:20点 4時間以上:30点

日本デイケア学会は取得単位C群です。会期が合計で4時間以上の場合には取得単位30点となりますが、ポイントを取得するには原則として会期の7割以上の参加が必要です。部分的なご参加ではポイントに加算されませんので、ご注意ください

### 【日本作業療法士協会生涯教育制度】

90分～1日 :1ポイント  
2日 :2ポイント  
発表(加算) :1ポイント  
講師(加算) 1日:1ポイント / 2日:2ポイント

## お問合せ先

日本デイケア学会 第16回年次大会名古屋大会事務局(担当:金澤・伊藤・齋藤)  
〒464-0850 名古屋市千種区今池5-19-12(医療法人 福智会 すずかけクリニック)  
(TEL) 052-741-7500 (FAX) 052-741-8930 (E-mail) info@daycare16.com

## 日 程 表

### デイケア学会1日目 平成23年9月22日(木)

	白鳥ホール	431 (432)	131 (132)	222 224 232 233 234	211	212			
8:30~	総合受付(名古屋国際会議場 2号館 1F)								
9:00~	開会式・開会宣言 窪田彰 大会長挨拶 福智寿彦								
9:10~	東日本大震災特別報告Ⅰ 「東日本大震災 その時われわれは何をしたのか」 原 敬造								
9:30~	東日本大震災特別報告Ⅱ 「津波の町の精神医療」 道又 利								
10:20~	休 憩								
10:30~	特別講演 「リカバリー実践から日本へ提言できること」 デーヴィッド・ピロン(同時通訳)								
12:10~	休 憩								
12:30~	ランチョンセミナー 福智寿彦						ランチョンセミナー (224のみ)	ポスター発表	デイケア展示 企業展示
13:30~	休 憩								
13:40~	教育講演 「それぞれの現場からみたデイケアの位置付け」 兼本浩祐								
14:30~	休 憩								
15:00~ 17:00	当事者・家族シンポジウム 「当事者の想いに耳を傾けよう」 「家族の想いに耳を傾けよう」	シンポジウム 「気分障害を対象としたリワークデイケア ~リワークプログラムの実践と効果~」 (座長)五十嵐良雄 (シンポジスト) 舟橋利彦 加藤和子 大木洋子	シンポジウム(高齢者) 「地域のくらしを支える 通所サービスの役割」 (座長)井上 崇 (シンポジスト) 小山 樹 小澤和枝 山下正倫 中島智子	14:50~ 一般演題 15:50~ 休 憩 16:00~ 一般演題					
18:00~	懇親会・涂善祥コンサート(ホテルグランコート名古屋 7F ザ・グランコート)								

### デイケア学会2日目 平成23年9月23日(金)

	白鳥ホール	431 (432)	131 (132)	222 224 232 233 234	211	212
8:30~	総合受付 (名古屋国際会議場 1号館 1F)					
9:00~	教育講演 「認知行動療法の有効な実践に向けて」 石垣琢磨	震災シンポジウム 「東日本大震災と被災者支援」 (座長)浅野弘毅 (シンポジスト) 新階敏恭 須藤康宏 宮城秀晃 林みつ穂 川副泰成	一般演題			
10:00~	休 憩		休 憩			
10:10~	特別講演 「精神障害リハビリテーションとリカバリー」 野中 猛		一般演題			
11:10~	休 憩		休 憩			
11:20~	ランチョンセミナー		ランチョンセミナー(222,234)	評議委員会・理事会		
12:20~	休 憩				ポスター発表	デイケア展示 企業展示
12:40~	総 会					
13:10~	座談会 「日本におけるリカバリーとは？」 福田祐典 浅野弘毅 佐々木裕光 澤 温 (司会)福智寿彦 窪田 彰					
15:10~	休 憩					
15:20~	市民公開講座 「当事者が語るリカバリー」 (シンポジスト)広田和子 (司会)永田仁					
17:00~	閉会式					

# デイケア 西から東から、北から南から…

## 私が働く病院の現況

国府田 まゆみ

私の勤務する病院は、茨城県北部にある、病床数 205 床（精神科 155 床、認知症 50 床）の精神科病院です。関連施設として、精神科デイケア・デイナイトケア、認知症患者デイケア、生活訓練事業所、グループホーム・ケアホーム、居宅介護支援事業所、デイサービスがあります。

東日本大震災では震度 6 弱、当院・施設共に、建物の損壊や停電、断水の被害がありました。今回は、震災時の状況と、私が震災を通して気づいたことについて報告します。

地震が発生した 14 時 46 分、私は病院スタッフと生活訓練事業所で会議をしていました。小さな揺れが徐々に大きな揺れとなり、会議に集まっていたスタッフは急遽、各病棟へ戻り、患者様を病院のグラウンドへ避難誘導しました。

この時、病院では、外来診察、作業療法、精神科デイケア・デイナイトケア、認知症患者デイケアが行われていました。その最中に、天井や壁が崩れ落ち、窓ガラスが割れていきましたが、幸い患者様に怪我はなく、皆、病院のグラウンドへ避難できました。その日の夜は、最も損壊が少なかった 50 床の病棟に入院患者様約 200 名と、帰宅困難となった外来患者様約 20 名の布団を並べ、多くの職員もそこに泊まりました。停電と断水で給食が停止し、患者様には非常食を配りました。蠟燭と懐中電灯で灯りをとり、患者様がトイレに行く時には職員が付き添うという状況でした。

震災を経験し、利用者対応において私自身が気づいたことを二つ述べます。

一つ目は、災害で周囲の環境が一変すると、とっさの状況判断が重要になるということです。私が配属されていた生活訓練事業所での出来事です。ある利用者が「(瓦礫を) 掃除しなければ」と言い張って掃除を続けていたため、スタッフが地震の状況を説明して何とか避難したということがありました。この時は「こんな時に掃除なんかしている場合じゃない」という思いが強く働きましたが、ふりかえてみると、本人なりに混乱している中で一生懸命考えた結果が掃除だったのだらうと感じます。

二つ目は、災害時では、普段独りでいる時よりはるかに不安が大きいです。独居の利用者の中には、「夜に地震が起きたら怖いから眠剤を飲めなくなった」と話す方が多くいました。夜間に独りだという不安から薬が飲めなかったという気持ちを十分に聞き、理解した上で、服薬を促す関わりが大切です。

以上の二点から、災害のような緊急時でも利用者に個別の理解を示すことが支援者として大切だと痛感しました。

震災から 4 か月たった今、当院では、東北地方の被災地や原発事故の影響で避難して来た方が、外来受診や、デイケア登録となっている他、入院、転院の依頼を受けています。

災害はいつ起きるか分からないと身を以て感じている今、スタッフと災害時の患者・利用者支援について話し合い、体制を作っていくことが今後の私の課題です。(医療法人社団有朋会 栗田病院)

## 震災とその後の状況

中西 美和子

地震が発生したときは、プログラム中でした。激しい揺れの中、スタッフもメンバーも机や卓球台の下で身を守っていました。幸いケガ人はなく、駐車場に避難し、その後解散しました。当クリニックは仙台中心部にあり、津波による被害や建物の大きな倒壊があったわけではありませんでした。少しずつ時間が経ち、さまざまな情報が入ってくるにつれ、その被害の甚大さには信じられない思いでした。

次の日にクリニックの被害状況を確認しました。水道・ガス・電気はストップし、外壁のタイルは剥落、ビル内の壁にもあちこちにひびが入っていました。屋内の物の破損、散乱はひどい状態でした。またクリニックから徒歩 5 分と、地下鉄で 20 分のところに事業所がありますが、そのうち 1 つは建物が使用出来ない状態となっていました。

安全性に配慮しつつ、初めの数週間外来は時間を短くして行い、デイケア・事業所は地震の発生した 6 日後に合同で再開しました。プログラムは、生活状況の情報交換(ライフライン・どこの店が開いているかなど地域の社会資源・防災用品など)、フリートーク、カードゲーム、ストレッチ、手芸が行われました。メンバー、スタッフともに「みんなの顔が見れて嬉しい」といった声が上がりました。フリートークでは、地震の恐怖を話す場面もありました。地震に対する目に見えない不安や苦しみを共有できて「自分だけじゃないと思え安心した」というメンバーもいれば、「聞くことで思い出してつらい」といったメンバーもいて、取り扱われることの難しい側面がありました。昼には炊き出しが行われました。食材の調達はなかなか難しいときだったので、喜ばれました。4 月には生活用品を見に行ったり、周辺を散歩したりするような外出のプログラムも取り入れるようになりました。就労や SST などのグループワークを取り入れた以前のプログラムに戻ったのは 5 月に入ってからでした。ただスポーツのプログラムは、借りていた市内の体育館が使用できず、未だ行うことができていません。

また、デイケアはビルの 6 階を中心に活動していたのですが、余震を警戒し 1 階に場所を移していました。6 月下旬にようやく元の場所での活動となり、メンバーからは「やはり 6 階の方が落ち着く」といった感想がきかれました。環境が感情や気持ちに与える影響の大きさを実感しました。そのほかに、食糧や水、ラジオ、懐中電灯などの防災用品を備えたり、メンバーを交えて避難訓練を実施したりしました。

また、通常業務のかたわら、他施設の職員や保健師と組み、石巻・山元町・仙台市内の避難所・仮設住宅・浸水地域への戸別訪問といった支援を行っています。

今回の地震を経て、ふつうの日常があることのありがたさを痛切に感じました。ライフラインがあること、活動できる場所があること、デイケアでみんな顔が合わせることができると、そのようなことがとても大切なことだ、と今は思います。(原クリニック)

# 日本デイケア学会入会申込みについて

日本デイケア学会は、デイケアの発展と向上を意図し、学術研究の促進と会員相互の交流の推進を目的に、平成8年に研究会として設立され、その後平成10年に学会に名称変更され、現在約1,000名の会員がおり、精神科デイケア、老人デイケア・デイサービスの分野で業務に従事している方が大部分を占めております。

1. 入会申込書 下記入会申込書にご記入の上、FAX か郵送で下記事務局までお送りください。

2. 入会金および年会費

正 会 員：入会金 1,000円 + 年会費 8,000円

団体会員：3名までは、入会金 5,000円 + 年会費 20,000円(登録者名の変更は適宜可能)

(3名を越えるときは、1名につき年会費 5,000円を加算してください)

振 込 先：郵便振替 名称：日本デイケア学会 口座番号：00170-8-167337

3. 資格(会則の一部を引用します)

正会員は、医療、保健、福祉、教育等の分野において、デイケアおよび関連業務に従事または従事しようとする個人で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとする。

団体会員は、デイケア業務をおこなう団体、施設、法人等で、本会の目的に賛同し会費を納めるものとし、一定数のデイケア従事者を登録することができる。

4. 事務局 〒113-0033 東京都文京区本郷2-17-13 広和レジデンス2F (有)エム・シー・ミュージズ内  
日本デイケア学会事務局

TEL&FAX：03-3813-6368

E-mail：info@daycare.gr.jp URL：http://www.daycare.gr.jp

----- キリトリ線 (ご記入いただき、郵送あるいはFAXで事務局までお送り下さい。) -----

## 入会申込書

(正会員用)

申込日 平成 年 月 日

氏名		性別	男・女	生年月日	T・S H	年	月	日
----	--	----	-----	------	----------	---	---	---

職種		所属先名称 (勤務先)	
----	--	----------------	--

所属先所在地	〒	電話番号	( )
--------	---	------	-----

(団体会員用)

団体名		代表者	
-----	--	-----	--

所在地	〒		
-----	---	--	--

種別	TEL	( )	FAX	( )
----	-----	-----	-----	-----

デイケア従事者(計 名) ※デイケア従事者より会員登録となります。

氏名	フリガナ	氏名	フリガナ
氏名	フリガナ	氏名	フリガナ